

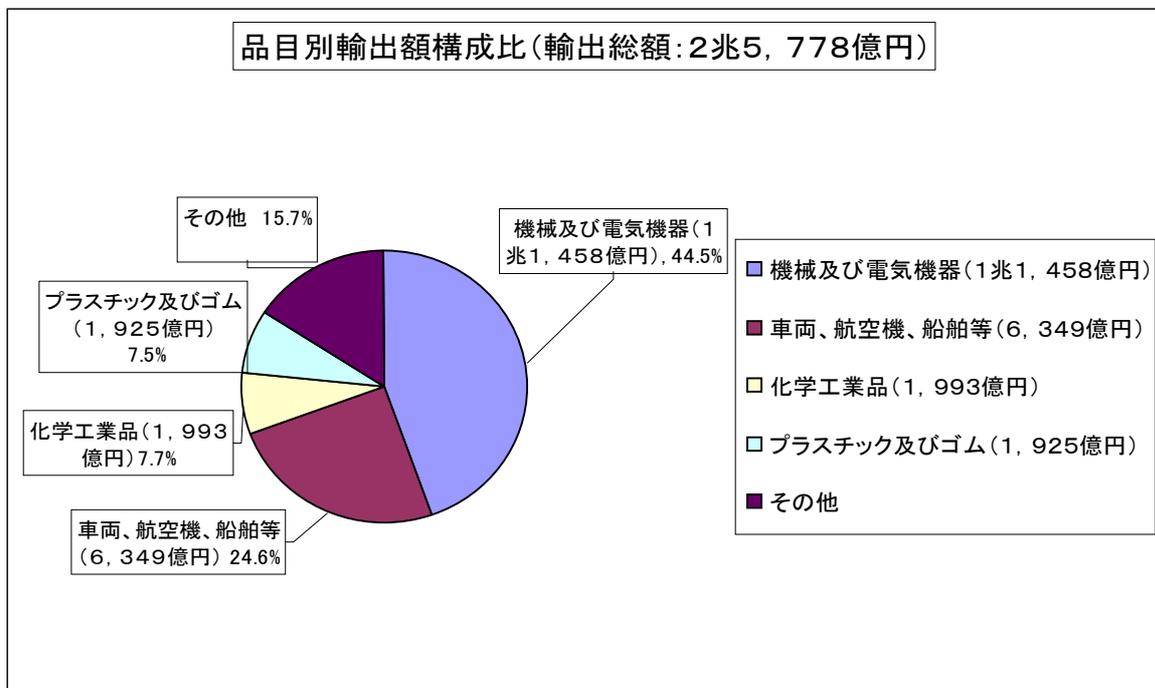
福岡県の輸出概況

(1) 概況

門司及び長崎税関資料に基づき、平成14年の福岡県内の港（門司、苅田、戸畑、博多、三池）及び福岡空港における輸出状況を見ると、次のとおりである。平成14年の本県の輸出総額は、2兆5,778億29百万円、前年比15.5%増で、前年のマイナスからプラスに転じた。

(2) 品目別輸出動向

品目別構成で見ると、「機械類及び電気機器」（1兆1,458億円）が最も多く輸出全体の44.5%を占めている。次いで、「車両、航空機、船舶等」が24.6%（6,349億円）、「化学工業の生産品」が7.7%（1,993億円）、「プラスチック及びゴム」が7.5%（1,925億円）と続いている。



(3) 港別輸出動向

港別の輸出額は、博多港が5,433億23百万円(前年比13.5%増)、門司港が3,341億02百万円(前年比9.2%増)、福岡空港が9,315億70百万円(前年比21.1%増)、戸畑港が1,776億88百万円(前年比17.1%減)、苅田港が4,632億03百万円(前年比30.6%増)、三池港が1,279億40百万円(前年比16.7%増)の順であった。

港別の特徴で見ると、門司港は「一般機械」、苅田港は「自動車」、戸畑港は「鉄鋼」、博多港は「一般機械及び輸送用機器」、福岡空港は「半導体電子部品」、三池港は「船舶類」の輸出ウエイトが高い。

(4) 地域別輸出動向

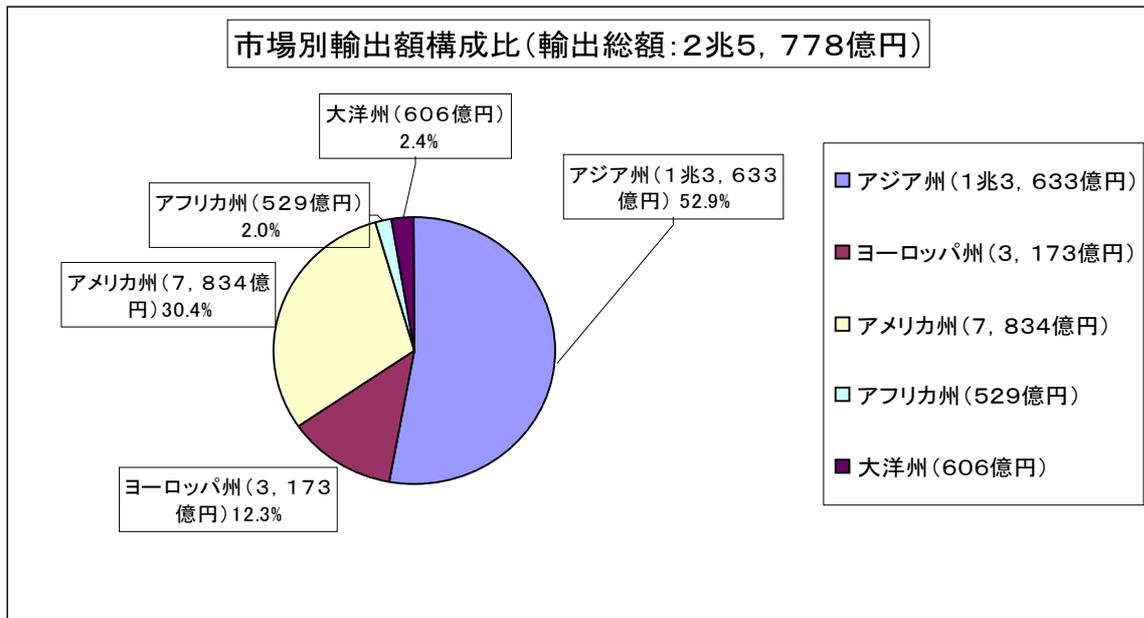
輸出先別でみると、アジア州への輸出が最も多く1兆3,633億円で、全体に占める割合は52.9%となった。主な相手先は、大韓民国(2,627億円、同10.2%)、台湾(2,077億円、同8.1%)、中華人民共和国(1,710億円、同6.6%)、香港(1,339億円、同5.2%)、シンガポール(1,265億円、同4.9%)の順となった。

ヨーロッパ州への輸出は3,173億円となり、全体に占める割合は12.3%となった。主な相手先はドイツ(769億円、同2.9%)、イギリス(487億円、同1.9%)、オランダ(449億円、同1.7%)、フランス(356億円、同1.4%)の順となった。

アメリカ州への輸出は7,834億円となり、全体に占める割合は30.4%となった。主な相手先は、アメリカ(6,088億円、同23.6%)である。

アフリカ州への輸出は529億円となり、全体に占める割合は2.0%となった。

大洋州への輸出は606億円となり、全体に占める割合は2.4%となった。主な相手先はオーストラリア(521億円、同2.0%)である。



福岡県内港上位輸出国(地域)順位

金額単位:百万円

順位	平成 12 年		平成 13 年			平成 14 年		
	国(地域)名	輸出額	国(地域)名	輸出額	構成比 (%)	国(地域)名	輸出額	構成比 (%)
1	アメリカ	690,092	アメリカ	564,957	25.3	アメリカ	608,849	23.6
2	大韓民国	241,653	大韓民国	236,763	10.6	大韓民国	262,754	10.2
3	台湾	225,298	台湾	186,217	8.3	台湾	207,718	8.1
4	シンガポール	141,054	中華人民共和国	141,628	6.3	中華人民共和国	171,058	6.6
5	中華人民共和国	133,311	シンガポール	128,623	5.8	香港	133,960	5.2
6	タイ	107,635	香港	104,288	4.7	シンガポール	126,518	4.9
7	香港	104,287	タイ	98,211	4.4	タイ	123,416	4.8
8	フィリピン	82,488	フィリピン	79,999	3.6	フィリピン	89,834	3.5
9	マレーシア	74,208	マレーシア	61,804	2.8	ドイツ	76,987	2.9
10	イギリス	56,664	ドイツ	56,965	2.6	マレーシア	72,569	2.8
11	ドイツ	56,501	インドネシア	45,990	2.1	オーストラリア	52,170	2.0
12	オーストラリア	39,584	イギリス	45,422	2.0	イギリス	48,755	1.9
13	カナダ	38,041	オーストラリア	42,886	1.9	カナダ	48,701	1.9
14	インドネシア	36,030	オランダ	42,023	1.9	オランダ	44,932	1.7
15	パナマ	33,849	フランス	35,792	1.6	インドネシア	43,444	1.7
	上記以外	334,912	上記以外	361,194	16.1	上記以外	466,164	18.2
	合計	2,395,607	合計	2,232,762	100.0	合計	2,577,829	100.0

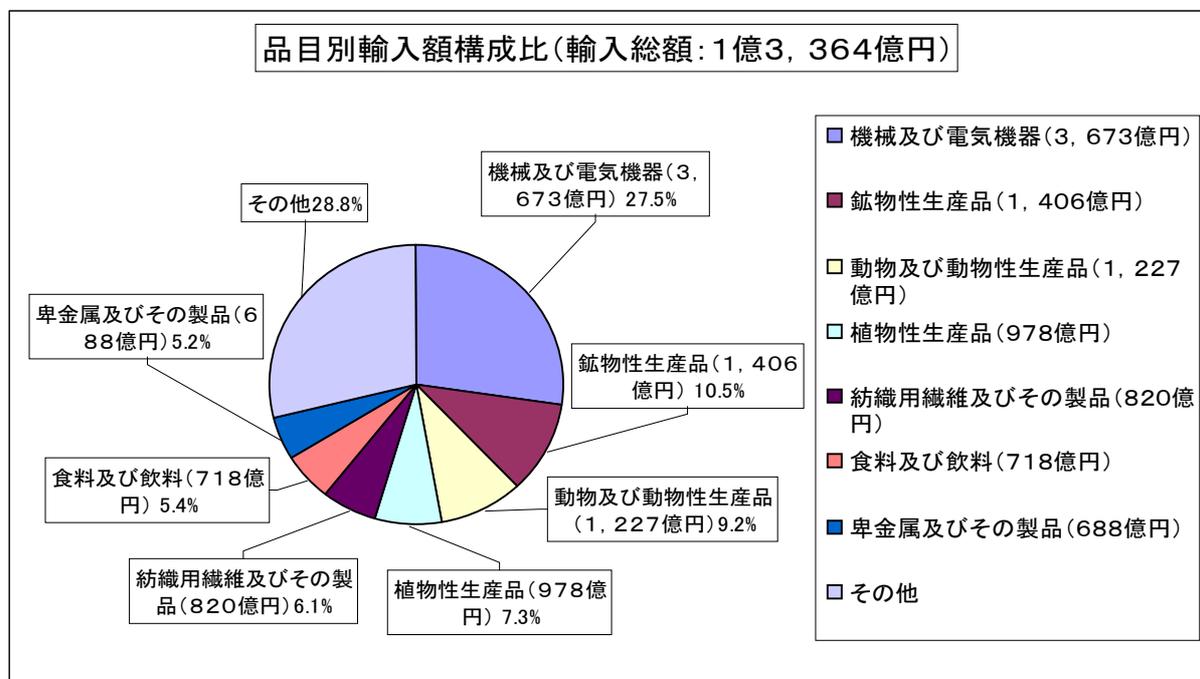
福岡県の輸入概況

(1) 概況

門司及び長崎税関資料に基づき、平成14年の福岡県内の港（門司、苅田、戸畑、博多、三池）及び福岡空港における輸入状況をみると、次のとおりである。平成14年の本県の輸入総額は、1兆3,364億10百万円、前年比1.8%増で、4年連続のプラスとなった。

(2) 品目別輸入動向

品目別構成で見ると、「機械類及び電気機器」(3,673億円)が最も多く輸入全体の27.5%を占めている。次いで、「鉱物性生産品」が10.5%(1,406億円)、「動物及び動物性生産品」が9.2%(1,227億円)、「植物性生産品」が7.3%(978億円)と続いている。



(3) 港別輸入動向

港別の輸入額は、博多港が5,027億12百万円(前年比3.1%増)、門司港が3,799億47百万円(前年比6.5%減)、福岡空港が2,828億69百万円(前年比16.3%増)、戸畑港が1,213億61百万円(前年比1.9%減)、三池港が424億48百万円(前年比3.3%減)、苅田港が70億71百万円(前年比10.9%減)の順であった。

港別の特徴で見ると、門司港は「衣類及び電気機器」、苅田港は「石炭」、戸畑港は「液化天然ガス」、博多港は「魚介類及び同調製品」、福岡空港は「半導体電子部品」、三池港は「はき物」の輸入ウエイトが高い。

(4) 地域別輸入動向

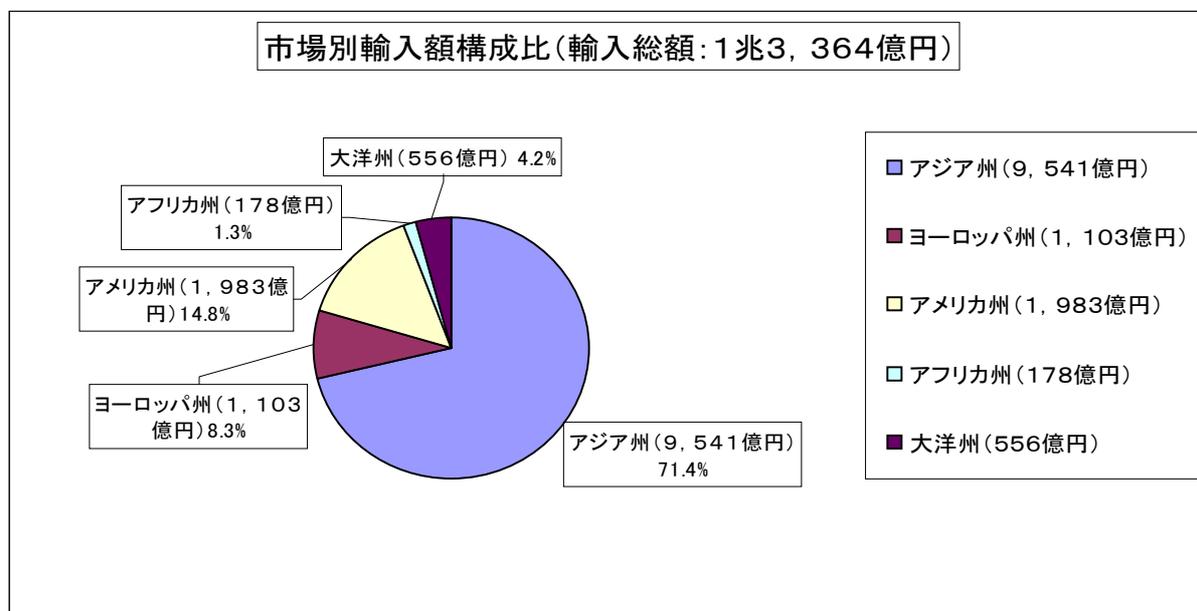
輸入先別で見ると、アジア州からの輸入は最も多く9,541億円で、全体に占める割合は71.4%となった。主な相手先は、中華人民共和国(3,555億円、同26.6%)、大韓民国(1,801億円、同13.5%)、インドネシア(991億円、同7.4%)、タイ(952億円、同7.1%)、台湾(687億円、同5.1%)、マレーシア(531億円、同4.0%)の順となった。

ヨーロッパ州からの輸入は、1,103億円となり、全体に占める割合は8.3%となった。主な相手先は、ロシア(210億円、同1.6%)、ドイツ(208億円、同1.6%)である。

アメリカ州からの輸入は、1,983億円となり、全体に占める割合は14.8%となった。主な相手先は、アメリカ(1,514億円、同11.3%)、カナダ(223億円、同1.7%)である。

アフリカ州からの輸入は、178億円となり、全体に占める割合は1.3%となった。

大洋州からの輸入は、556億円となり、全体に占める割合は4.2%となった。主な相手先はオーストラリア(496億円、同3.7%)である。



福岡県内港上位輸入国(地域)順位表

金額単位:百万円

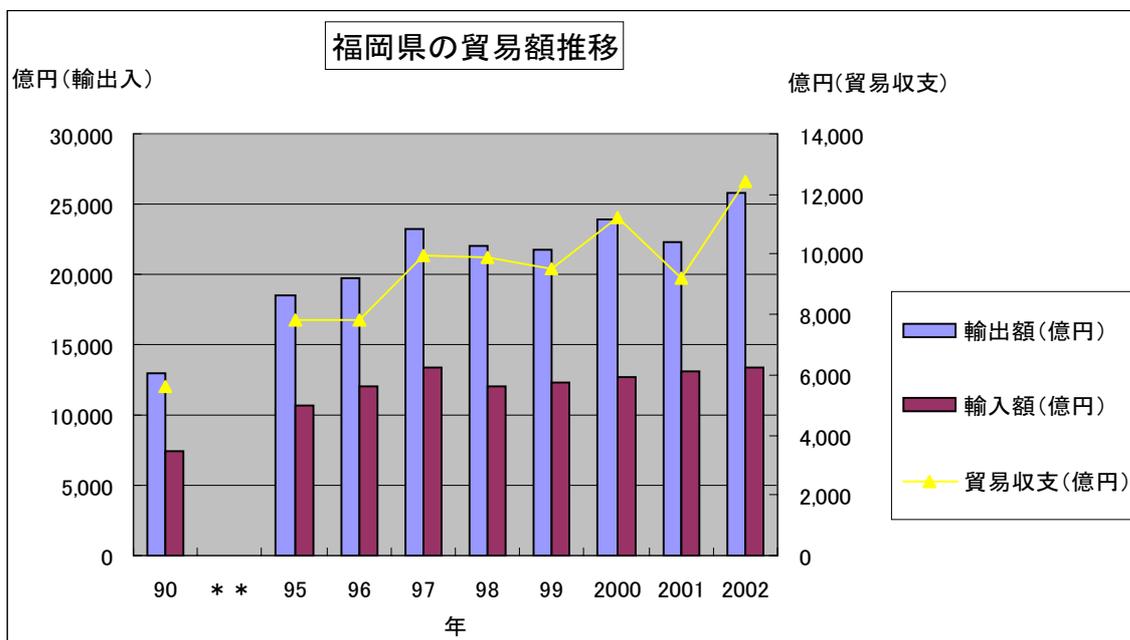
順位	平成 12 年		平成 13 年			平成 14 年		
	国(地域)名	輸入額	国(地域)名	輸入額	構成比 (%)	国(地域)名	輸入額	構成比 (%)
1	中華人民共和国	296,392	中華人民共和国	337,154	25.7	中華人民共和国	355,582	26.6
2	大韓民国	184,880	大韓民国	196,963	15.0	大韓民国	180,172	13.5
3	アメリカ	153,214	アメリカ	163,132	12.4	アメリカ	151,413	11.3
4	インドネシア	98,590	インドネシア	103,394	7.9	インドネシア	99,109	7.4
5	台湾	97,162	タイ	71,984	5.5	タイ	95,201	7.1
6	タイ	70,560	台湾	64,161	4.9	台湾	68,714	5.1
7	マレーシア	59,158	オーストラリア	57,534	4.4	フィリピン	56,939	4.3
8	オーストラリア	50,191	マレーシア	51,683	3.9	マレーシア	53,110	4.0
9	フィリピン	32,302	フィリピン	42,462	3.2	オーストラリア	49,648	3.7
10	カナダ	25,329	カナダ	25,444	1.9	カナダ	22,325	1.7
11	ドイツ	17,009	ロシア	24,221	1.8	ロシア	21,082	1.6
12	スウェーデン	16,612	ドイツ	16,059	1.2	ドイツ	20,812	1.6
13	シンガポール	12,797	インド	11,210	0.9	ヴェトナム	11,747	0.9
14	インドネシア	12,024	シンガポール	10,199	0.8	インド	11,559	0.9
15	フランス	8,957	ヴェトナム	9,774	0.7	ブラジル	10,888	0.8
	上記以外	135,029	上記以外	127,575	9.8	上記以外	128,109	9.5
	合計	1,270,206	合計	1,312,949	100.0	合計	1,336,410	100.0

福岡県の貿易の位置付け

(1) 輸出入バランス

2002年の日本の貿易額（通関ベース）は、円ベースでは、輸出が前年比6.4%増の52兆1,090億円、輸入が同0.4%減の42兆2,280億円で、貿易収支は、前年の6兆5,637億円から9兆8,810億円へと拡大し4年ぶりの増加となった。

これに対し、福岡県の貿易は、輸出が2兆5,778億円（前年比15.5%増）となり、前年のマイナスからプラスに転じた。一方、輸入は1兆3,364億円（前年比1.8%増）となり、4年連続のプラスとなった。この結果、輸出入の貿易バランスは、出超基調で推移しており、前年比プラス35.0%の12,414億円という大幅な増額となった。これは、昨年の貿易収支黒字縮小局面から一転して、貿易収支黒字拡大となった。



(2) 地域別輸出入動向

<日本>

2002年の輸出を国・地域別で見ると、米国が前年比2.6%減の1,186億ドルで2001年の前年比14.8%減に引き続き、小幅ながら2年連続の減少となった。EUも2001年の前年比17.6%減から2002年は同5.5%減の611億ドルと2年連続のマイナスではあったが減少幅は縮小した。一方、アジアNIES、ASEAN4は大幅なマイナスからプラスに転じた。中国向けの輸出は2002年も前年比28.2%増の399億ドルと前年比大幅増となった。

2002年の輸入は、アジアNIESは前年比8.0%減、米国は同9.3%減、ASEAN4は同5.4%減と減少する中、中国からの輸入は前年比6.2%増の617億ドルと、98年以来4年連続の前年比プラスとなった。日本の製品輸入は、2002年に前年比3.0%減の2,093億3,443万ドルと減少したが、製品輸入比率は2001年の61.4%から62.1%へと0.7ポイント上昇した。

<福岡県>

これに対し、福岡県の地域別輸出は、県全体の輸出額が増加したこともあり、米国への輸出額 6,088 億円の 439 億円の増であったが、割合からすると 1.7%減となった。ヨーロッパ州への輸出も米国同様に、輸出額が 3,171 億円と昨年に比べ 228 億円増加しているが、割合で見ると 0.9%の減となっている。

また、アジアへの輸出額も高くなっており、アジア州への輸出額は前年比 14.7%増の 1 兆 3,633 億円であり、輸出額全体に占めるアジア州の割合は 0.3%減の 52.9%であるが、輸出額としては 1,748 億円の増となった。また、中国への輸出は、1,710 億円の前年比の 20%増加している。

一方、輸入に関しても、本県の場合、日本の輸入額の減とは反対に増加しており、アジア州からの輸入割合が大きくなっており、全体の 71.4%を占め、昨年より 412 億円増加の 9,541 億円となっている。しかし、ヨーロッパ州へは 1,110 億円から 1,103 億円、アメリカ州へは 2,079 億円から 1,983 億円へと輸入額は減少している。国別では、中国、タイ、台湾からの輸入が増加しており、特に、中国からの輸入は、前年より 184 億円の 5.5%増加の 3,555 億円となっている。一方、大韓民国、アメリカ、インドネシアからの輸入額は、減少している。

(3) 品目別輸出入動向

<日本>

2002 年の品目別輸出の特徴をみると、自動車の増加が全体の増加に大きく寄与したほか素材、映像機器が増加し、また、IT 関連財も持ち直している。

素材輸出は、東アジア向けが拡大して前年比 5.7%増加、IT 関連財輸出は米国向けが落ち込んで前年比 0.7%減となった。また、IT 関連財を除いたその他機械機器輸出は東アジア向けが好調となり、前年比 2.6%増となった。

2002 年の輸入総額は減少となったが、前年比減に対する地域別寄与度をみると、米国からの輸入は IT 関連財の大幅減少によりマイナス寄与度が最も高かった。EU からの輸入も IT 関連財が大幅減少したが、石油製品の大幅増に加え、その他機械機器も増加した。東アジアからの輸入は、アジア NIES 及び ASEAN4 がともに鉱物性燃料、事務用機器、音響映像機器の大幅減少によりマイナスの寄与度が高かった一方で、中国は IT 関連財、その他機械機器が大幅に増加したためプラスの寄与度となった。

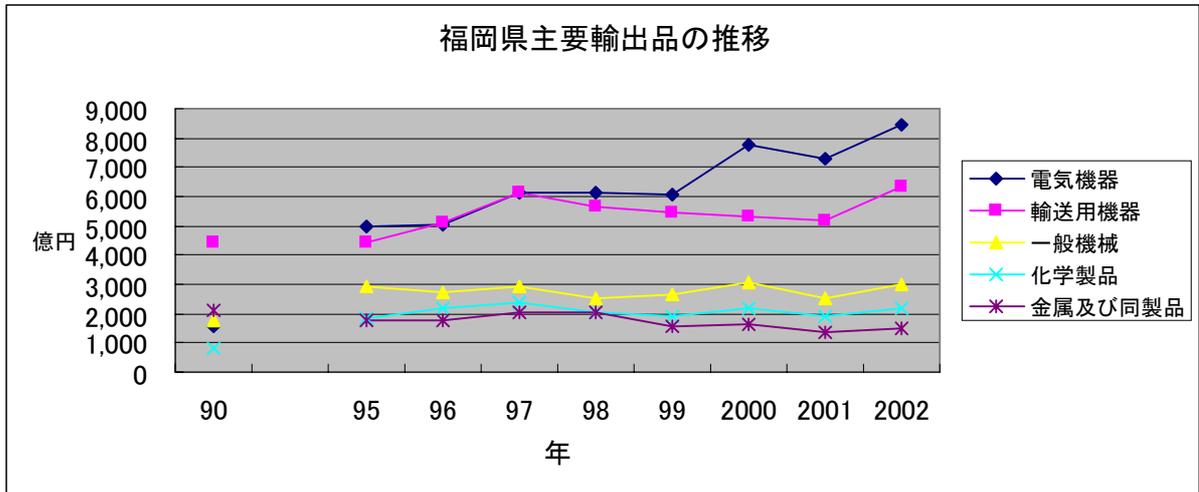
事務用機器を含む IT 関連財の輸入は前年比 7.5%減少したが、これは、米国、ASEAN4、アジア NIES からの輸入が事務用機器、通信機で大幅減少となったことによる。

一方、繊維製品の輸入は、中国をはじめ主要地域が日本の内需不振を映して軒並み減少となった。中国からは繊維製品の減少と対照的に事務用機器の大幅増加となり、中国からの輸入品目において、労働集約的品目から資本集約的品目への高度化という構造変化の進展がみられる。

<福岡県>

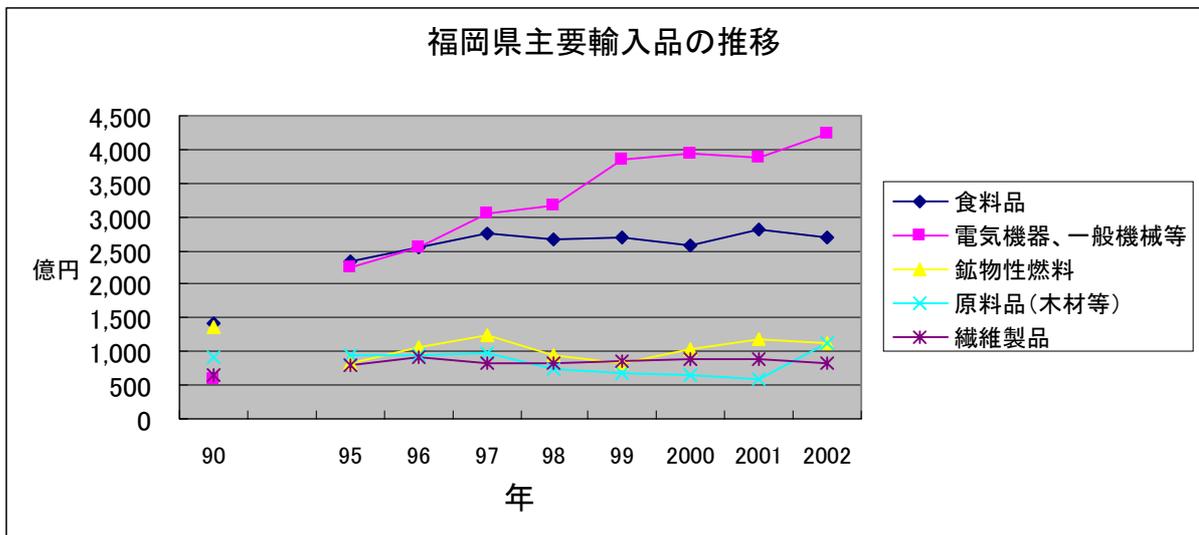
これに対し、福岡県の品目別輸出額の対前年伸び率を見ると、機械類及び電気機器、輸送用機器が増加し、化学工業の生産品が減少しており、日本全体の輸出の特徴と同じような動きを示している。

1990 年代半ばと比較すると、電気機器は激しい動きをみせており、増加傾向にある。また、昨年まで減少傾向にあった、輸送機器が今年度は、1997 年と同程度まで持ち直している。



品目別輸入額の対前年伸び率に関しては、輸入総額の増加を反映し、電気機器・一般機械の増加が目立ち、前年の金額を上回っている。

一方、日本全体の輸入動向と同様に、鉱物性燃料、繊維製品の品目で、前年に比べ減少している。



* 貿易統計データについては、「財務省ホームページ」、「平成14年(2002)外国貿易年表」(日本関税協会門司支部編)、「平成14年(2002)外国貿易年表」(長崎税関編)、「九州経済圏各県別の貿易(確定値)平成14年分」(門司税関)を基に福岡県にて編集

* 日本の動向に関する記述については「ジェトロ貿易投資白書2003年版」(ジェトロ編)より抜粋